

1 学校教育目標 みらいへの挑戦 ～Go together～	2 本年度の重点目標 ①義務教育学校の特性を活かし、全職員がつながりを意識し、目指す方向性を理解した学校づくりの推進 ②生徒理解に基づいた生徒指導の推進と自主・自立の気概のある児童生徒の育成の推進 ③あいさつと歌声が響く学校づくりの推進
---------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①義務教育学校の特性を活かし、全職員がつながりを意識し、目指す方向性を理解した学校づくりの推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○学校経営基本方針	学園教育目標の周知	・児童生徒、保護者、地域への教育目標の周知を図り、認知度を80%以上にする。	・学校だより、学校ホームページ、連絡メールに常に掲載すると共に、校内の要所に掲示する。 ・具体的な行動について、児童生徒が実践できるよう、各種集会で働きかける。	総務部	佐伯原口
教育活動	●学力の向上	基礎・基本の定着	・12月調査において、県平均に対する値を4月調査より3ポイント上回る。 ・学校独自で作成した「家庭学習の手引き」も活用しながら、家庭学習の習慣化と自主学習ノートを使った学習内容の充実を図る。	・TTを効果的に活用し、個別の支援を充実させることにより、基本の定着を図る。 ・児童生徒・保護者に家庭学習の手引きを配布して家庭学習の習慣化を図ると共に、自主学習ノート等のよい事例を紹介し学習の取り組み方を指導する。	教務部	吉田野田
教育活動	○海洋教育の推進	主体的に学び、積極的に発信できる児童生徒の育成	・海に関する学習を通して、ふるさとのよさや現状を見つめたり未来について考えたりしながら学びを深め、学習したことや考えたことを多くの人に発信する力を育成する。	・各教科、領域の系統的・横断的なカリキュラムを作成し、児童生徒の実態に応じた授業実践に取り組む。 ・学習したことや考えたことを発表したり、伝え合ったりするに、同学年間にとどまらず、他学年や保護者、地域住民、県や国内外の人々への情報発信の場を設ける。	校内研究	峯鶴丸
②生徒理解に基づいた生徒指導の推進と自主・自立の気概のある児童生徒の育成の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめのない協力的な人間関係づくり	・義務教育学校の特性を生かした、いじめのない協力的な人間関係を構築する。 ・人権集会等の時間を計画的に設定し、差別を自らの問題として考えることができる人権学習づくりと実践に努める。	・学校行事を通して協力体制をもたせ、よりよい仲間づくりの構築を図る。 ・教育相談週間等を設けて、積極的に児童生徒理解を行い、個別の支援を行うと共に、児童生徒理解協議会を開催し、心にとめおこ子に対する支援体制の共通理解を図る。 ・グループワークトレーニングや学び合いの授業づくりを通して、互いの理解を深めながら、「わかる」「できる」喜びを味わわせる。	人権・同和教育	今村田代
教育活動	●心の教育	望ましい集団作り	・異学年との交流を適して、協力して実践的な態度や思いやりの心を育てる。	・1～9年生の縦割り活動を学校生活や学校行事に取り入れる。 ・高学年が低学年をサポートする体制をつくり、高学年は低学年を慈しみ、低学年は高学年に憧れの念を抱く心を育てる。	特別活動部	宗上野
教育活動	○生徒指導の充実	共感的な生徒理解に基づいた生徒指導の実践	・交通ルール順守と基本的な生活の習慣を身に付けさせる。 ・特別支援教育や教育相談と連携して生徒指導を進めると共に、開発的な生徒指導を充実させる。	・生徒指導協議会を充実させ、名札、挨拶、言葉遣い等、基本的な生活習慣が身に付くよう、全職員が同じスタンスで指導に当たる。 ・交通教室を充実させる。 ・児童生徒会活動を活性化させ、主体的に活動できるよう支援する。	生活部	居石松本
学校運営	○特別支援教育の充実	教員の意識の高揚と連携強化	・特別支援教育に関する研修会を実施し、対象児童生徒理解が深まったと感じる割合を90%以上にする。	・特別支援教育部を中心とした研修会を年3回実施する。 ・支援員の先生方に、支援の理解を深める研修会を月1回行う。	特別支援部	古藤石塚
教育活動	●健康・体づくり	体力の向上	・立腰教育の推進を図り、正しい姿勢で学習に取り組む児童生徒の割合を90%以上にする。 ・自力登校を促し、バス停や学校まで歩いたり、自転車を歩いたりして登校する児童生徒の割合を90%以上にする。	・授業の前後は必ず立腰させ、授業中に正しい姿勢で受けられるようにする。 ・自力登校の意義をしっかりと理解し、少しでも自分の足で登校することを意識させ、体力の向上を図る。	保体部	齋藤畑島
③あいさつと歌声が響く学校づくりの推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○母校の誇りづくり	挨拶と歌声が響く学校	・挨拶運動を活性化させ、自ら挨拶のできる児童生徒の割合80%以上を目指す。 ・行事等で「歌声を声高らかに堂々と歌う」児童生徒の割合80%以上を目指す。	・生活委員会を中心とした挨拶運動の実施をするなど、児童生徒会活動を促進させる。 ・全校集会や児童生徒会集では、生徒が前で指揮をし、自分たちで校歌を歌う場面をつくり、行事の前には、生徒会が放送などを利用して歌う意欲を高め、各クラスと連携しながら全校的に練習する場面をつくりたい。	生活部 音楽部	居石松本 山口原
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の推進	ICTを活用した授業の実践	・ICT機器の利活用を推進を図る。 ・特別支援を要する児童生徒への視覚教材の推進を図る。	・校内にあるICT機器活用の充実を促進し、授業での効果的な活用を促す。 ・ICT支援員と連携し、特別支援の児童生徒の特性に応じた使用方法を提案する。	情報ICT	上野島中
学校運営	○開かれた学校づくり	保護者や地域の方々の学校行事や学校運営への参加促進	・学校ホームページや学校だよりを活用しながら、学校内の様子を広く地域に伝えていく。 ・生活科、総合的な学習の時間などを中心に、地域の人材を活用した授業や地域に発信する授業を行う。	・こまめにホームページの更新を行ったり、地域の広報欄に学校だよりコーナーを設置したりして、最新の情報を伝える。 ・地域の方を講師とした授業を実践し、地域との連携を深める。 ・各教科、領域等で地域に発信・交流する場面を設ける。	総務部	佐伯原口
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・学校業務の見直しをし、教員が児童生徒と向き合う時間を確保できるように工夫する。 ・全職員の残業時間を80時間以内に収める。	・SEI-Net及び校内LANを活用し、学校文書の作成・提出の効率化を進める。 ・タイムマネジメントを行うと共に、部活動についても町教育委員会が示したガイドラインに則した運営に努めるなどの実践を行いながら、定時退勤日を定着させる。	総務部	佐伯原口

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目